



テュートリアル課題 みんなに見守られて

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2015
号	S7
発行年	2015-03-30
URL	http://doi.org/10.20780/00032584

2015年度 Segment. 7

課 題 No.5

課題名：みんなに見守られて

課題作成者：東医療センター 在宅医療部 生沼幸子



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

テルさんは97歳の女性です。

耳が遠くなり、補聴器を使用しています。

朝ご飯を食べたあとに、「朝ご飯はまだなの」と言ったり、財布をしまった場所がわからなくなり、「私の財布、とったでしょう？」と言うことがあります。

総入れ歯のため、やわらかい食事をしています。

時々、排尿が間に合わないことがあり、パンツ型の紙おむつを使用しています。

夜間3～4回排尿のため目覚めるので、熟睡することができません。

便秘が続くため、下剤を内服しています。

家のなかを歩く時、腰や両膝が痛くなります。

最近、ころぶことが多くなり、トイレまで、這って移動することもあります。

「何もする気がしない。死ぬような気がする」と言うようになりました。

シート2

かかりつけ医に相談したところ、「多くの老年症候群がみられます。後期高齢者健康診査の結果と、からだの機能、認知機能や抑うつ状態、生活の状態などを総合的に評価し、これからの治療やケアの方法について、考えましょう。」と言われました。

シート3

身体機能や認知機能障害の進行を防止するため、通所介護サービスを利用することを勧められました。介護保険制度の要介護認定をまだ受けていないため、地域包括支援センターに相談に行くよう、アドバイスされました。

地域包括支援センターから紹介してもらったケアマネージャーに、要介護認定の申請を依頼しました。かかりつけ医は要介護認定の主治医意見書を作成し、区役所に送付しました。要介護認定の結果が出るまで、週1回通所介護サービスを利用することになりました。

1ヶ月後、区役所から、要介護3を認定されたと通知が来ました。

シート4

100歳の誕生日が過ぎた頃から、日中もベットで眠って過ごす時間が増えました。体力的に通所介護サービスを利用することが難しくなりました。定期的に通院することが困難になったため、在宅療養支援診療所から週1日訪問診療が始まりました。訪問看護ステーションの看護師さんも週2日訪問看護することになりました。自宅でサービス担当者会議（ケアカンファレンス）が開かれました。

この頃から、痰がからむ咳が目立つようになりました。誤嚥性肺炎のため、抗菌薬の点滴治療を受け、改善するというのを何度か繰り返しました。摂食量が少なくなりました。経口摂取が困難になった時、おなかに穴を開けて栄養剤を投与する方法があることを説明されました。医師、看護師、家族、親戚と相談してよく考えた結果、テルさんが元気な頃、自然に呼吸ができなくなった際に人工呼吸療法を行ったり、食事を食べることができなくなった時に経管栄養療法を行うことは希望しないと言っていたことを思い出し、家族は本人の力に任せ、自然に見守ることにしました。

シート5

最近、昼も夜も眠っていることが多くなり、言葉がはっきりしなくなりました。

日曜日の朝、息子さんにヨーグルトを食べさせてもらいました。

13時過ぎ、呼吸状態がいつもと違うことに家族が気づきました。

13時20分、大きな呼吸をした後、呼吸が止まりました。「呼吸が止まった様子だ」と、家族からかかりつけ医に電話がありました。医師は往診を行い、死亡確認しました。その場で、死亡診断書を作成してくれました。

息子さん、息子さんの妻、2人のお孫さんに見守られた、大往生でした。